

# “こども”<sup>かんじゃ</sup>の患者さん<sup>む</sup>向け

## メトホルミン 塩酸塩錠 250mgMT「TE」 500mgMT「TE」

### を服用<sup>ふくよう</sup>される方<sup>かた</sup>へ

—このおくすりは、血糖<sup>けつとう</sup>値<sup>ち</sup>を下<sup>さ</sup>げるおくすりです。—

### メトホルミンをのむ<sup>ちゆうい</sup>ときに注意<sup>ちゆうい</sup>すること

- お医者<sup>いしゃ</sup>さんや薬剤師<sup>やくざいし</sup>さんから言<sup>い</sup>われたとおりにのんでください。
- のみわすれた場合は、1回<sup>ばあい</sup>とばして次<sup>かい</sup>のおくすりの時間<sup>つぎ</sup>から1回分<sup>じかん</sup>をのんでください。  
ぜったいに2回分<sup>かいぶん</sup>を一度<sup>いちど</sup>にのんではいけません。

### メトホルミンをのんだあ<sup>ちゆうい</sup>とに注意<sup>ちゆうい</sup>すること

- “乳酸<sup>にゅうさん</sup>アシドーシス”<sup>お</sup>を起こ<sup>おこ</sup>さないために。
  - 熱<sup>ねつ</sup>があるとき、下痢<sup>げり</sup>のときや食<sup>た</sup>べたものを吐<sup>は</sup>いたとき、食欲<sup>しょくよく</sup>がなく食<sup>た</sup>べられないときには、このおくすりをのむのをいったんやめて、お医者<sup>いしゃ</sup>さんまたは薬剤師<sup>やくざいし</sup>さん<sup>そうだん</sup>に相談<sup>そうだん</sup>しましょう。
  - 水分<sup>すいぶん</sup>をてきどにとるようにしましょう。
  - 乳酸<sup>にゅうさん</sup>アシドーシス<sup>お</sup>を起こ<sup>おこ</sup>すと、吐<sup>は</sup>き気<sup>け</sup>・吐<sup>は</sup>く、おなか<sup>いた</sup>が痛<sup>いた</sup>い・下痢<sup>げり</sup>、体<sup>からだ</sup>がだる<sup>かん</sup>く感じる、筋<sup>きん</sup>肉<sup>にく</sup>痛<sup>つう</sup>、呼<sup>こきゅう</sup>吸<sup>く</sup>が苦<sup>くる</sup>くなるなどの症<sup>しょうじょう</sup>状<sup>じょう</sup>がみられます。これらの症<sup>しょうじょう</sup>状<sup>じょう</sup>がみられたら、  
すぐ<sup>いしゃ</sup>にこのおくすりをのむのをやめて、お医者<sup>いしゃ</sup>さん<sup>い</sup>にみてもらうようにして  
ください。

### 【保護者の方へ】

- まれに、「乳酸アシドーシス」という治療が必要な副作用を起こすことがあります。
- 吐き気・嘔吐、腹痛・下痢、倦怠感、筋肉痛、呼吸が苦しいなどの症状がみられたら、すぐにメトホルミン塩酸塩錠MT「TE」の服用を中止し、医師にみてもらうようにしてください。
- 腎臓や肝臓の機能が低下している患者さん、心臓や肺に病気がある患者さん、低酸素血症を併しやすい状態（喘息や慢性閉塞性肺疾患など）、脱水状態が懸念される患者さん、感染症の患者さんなどで起きやすく、特に、脱水などにより急変することもありますので、注意してください。
- 脱水により乳酸アシドーシスを起こしやすくなるので、脱水が起こらないよう注意してください。発熱、下痢、嘔吐、食欲がなく食事がとれない場合や、利尿作用を有する薬剤（利尿剤、SGLT2阻害剤など）を服用している場合には、脱水を起こすことがあります。脱水症状がみられた場合には、メトホルミン塩酸塩錠MT「TE」の服用をいったん中止し、医師または薬剤師に相談してください。
- 次のときには、メトホルミン塩酸塩錠MT「TE」を服用していることを医師または薬剤師に伝えてください。
  - 手術を受けるとき
  - 他の医師から新たに別のお薬をもらうときや、薬局などで他のお薬を購入するとき
  - 血管・尿路造影検査やCT検査など、ヨード造影剤を使用する検査や治療を受けるとき

## メトホルミンをのんだあとに注意すること

### ● “低血糖” に注意しましょう。

血糖値(血液中のブドウ糖の量)が低くなりすぎると、急に強くおなかがすいたと感じ、力の抜けた感じ、冷や汗、手足のふるえ、頭痛やふらつきなどの低血糖症状が起こることがあります。ふだんから砂糖やブドウ糖を持ち歩き、低血糖に気づいたらとりましょう。がまんしてはいけません。

砂糖とブドウ糖のどちらをとるのがよいかは、お医者さんや薬剤師さんにききましょう。

高いところや不安定なところにいるとき、自転車に乗っているときに低血糖症状を起こすと事故につながる危険性があります。特に注意してください。

#### 【保護者の方へ】

- 患者さんに、上記のような症状がみられたり、「ぼんやりしている、うとうとしている、ろれつが回らない」など、いつもと違った様子に気づいたときには、すぐに砂糖やブドウ糖をとらせてください。
- アカルボース、ボグリボース、ミグリトールと呼ばれるお薬をのんでいる場合には、砂糖ではなくブドウ糖をとる必要がありますので、あらかじめ医師や薬剤師に確認してください。
- 砂糖やブドウ糖をとってもよくなる時や「けいれんを起こす、意識がなくなる」などの場合には、すぐに医師にみてもらうようにしてください。



いつもと違うと感じたらお医者さんまたは薬剤師さんに相談してください。

連絡先等